令和7年第4回　岩沼市議会定例会
一般質問通告一覧表

質問順番	議席番号	議員氏名	質問事項及びその要旨	答弁者
1	4	高　梨　明　美	**<u>１．高齢者支援について</u>** １．エンディング（終活）支援について 　単身で暮らす65歳以上の高齢者の人数は、国全体で見ると、2020年で約670万人となっており、2040年には約900万人に達すると言われている。こういった方々の中には、頼れる家族がおらず、亡くなった後、遺体を引き取る人がいないために無縁遺骨となってしまう方もいる。総務省の調査では、全国の市区町村が保管する無縁遺骨は増加傾向にあり、2021年10月時点で約６万柱に上ることが確認されている。 　自治体は、今後、こうした課題に向き合い、本人の尊厳を守る終活支援に取り組んでいかなければならない。引き取り手がない遺骨が全国的に増えていく中で、行政の役割を明確にする時期が来ていると思われる。 ⑴　本市の65歳以上の独り暮らしの人数、割合及び今後の推移の見通しを伺う。 ⑵　相談窓口の体制を伺う。 ⑶　普及啓発の取組を伺う。 ⑷　単身で暮らす高齢者をサポートする取組を伺う。 ⑸　終活支援事業の取組について ①　身寄りのない単身高齢者を対象に、亡くなった後に、市と葬儀会社が連携して葬儀や納骨を行うエンディングプラン・サポート事業を実施してはどうか伺う。 ②　緊急連絡先やエンディングノートの保管場所、墓の所在地など必要な情報を市に登録する終活情報登録伝達事業を実施してはどうか伺う。 ２．アドバンス・ケア・プランニング（ＡＣＰ）の取組について 　ＡＣＰとは、もしものときに、どのような医療ケアを望むのか、前もって考え、家族や信頼する人、医療、介護従事者たちと繰り返し話し合い、共有することをいい、人生会議ともいう。 ⑴　ＡＣＰに対する市の見解を伺う。	市　長

（同）	（同）	高　梨　明　美	⑵　本市のＡＣＰの取組を伺う。 ①　現在の市民の認知度を市としてどのように受け止めているか伺う。 ②　普及啓発の取組を伺う。 ③　自分史（終活）ノートを発行し、活用してもらってはどうか伺う。 ３．後見人制度の活用促進について 認知症高齢者の推計人数は600万人を超え、うち軽度認知障害の高齢者は約400万人と推定されている。また、判断能力が不十分な者として、認知症高齢者のほかに、精神障害者が約460万人、知的障害者が約110万人おり、これらを合わせると、全国でおよそ1,200万人に上ると推計される。近年の高齢化の進展に伴い、認知症高齢者の増加は社会的課題となっており、これに伴って成年後見制度の需要も一層高まると見込まれている。成年後見制度は、本人の生活や人権、財産を保護するため、契約や行政手続等において支援を行う重要な仕組みであり、その利用拡大は地域包括ケアの推進に不可欠である。特に、市民が後見人として活動する「市民後見人制度」は、地域に根差した支援体制の強化に資する有効な手段であり、その活用促進が求められる。 ⑴　成年後見の支援体制を伺う。 ①　中核機関の設置状況を伺う。 ②　成年後見支援センター（権利擁護センター）設置の検討状況を伺う。 ⑵　本市における成年後見制度及び市民後見人制度の直近数年間の利用者数と、今後の見通しを伺う。 ⑶　成年後見人や被後見人は、税、健康保険、障害福祉、高齢者福祉など、多岐にわたる手続を各窓口で個別に行う必要があり、手続の煩雑さや負担が大きい現状がある。これらの課題を解決する一歩として、成年後見人等が各種通知等の送付先を一括して登録・変更できる仕組みを導入することが有効であると考える。これにより、市民後見人を含む被後見人の負担軽減と、行政事務の効率化の双方を実現できると考える。 ①　成年後見人等が各種通知等の送付先を一括して登録・変更できる仕組みの導入について、市の見解を伺う。	市　長

(同)	(同)	高　梨　明　美	②　導入に向けた検討が必要と考えるが、認識を伺う。 ⑷　市民後見人制度の活用促進に向けた市の取組について。 ①　市民後見人制度について見解を伺う。 ②　活用促進に向けた市の取組状況を伺う。 ③　今後の取組について ア　市民向けに、市民後見人制度の普及啓発を目的とした研修会の実施及び参加の推進をしてはどうか、考えを伺う。 イ　市民後見人の担い手となり得る人材を養成してはどうか、考えを伺う。	市　長
2	6	佐　藤　剛　太	**<u>1．本市の部活動について</u>** 1．本市において部活動は、学校教育の一環と考えるが、見解を伺う。 2．仙南地区中総体(岩沼市・名取市・亘理郡)と県中総体を勝ち抜き、全国中学校体育大会や東北中学校体育大会に出場する際には、これまで大会出場費・旅費・宿泊代は出場する中学校・選手が負担していたが、岩沼市の代表として、全国・東北中学校体育大会に出場する選手に大会出場費・旅費・宿泊代などの、出場するために必要な経費を市が一部支援するべきと考えるが、見解を伺う。 3．休日部活動の段階的な地域移行について伺う。 ⑴　休日部活動の地域移行を他自治体に先駆けて、早い段階から進めてきた。しかし、他自治体ではまだ進んでいないのが現状だが、本市において今後の休日部活動の段階的な地域移行について、どう考えているか見解を伺う。 ⑵　休日部活動の地域移行が終われば、平日の部活動の地域移行が進められると考えるが、現状他自治体の段階的な地域移行が進められていない中で、本市だけが平日の部活動の地域移行を進めることはあってはいけないと考えるが、見解を伺う。	市　長 教育長
			<u>2．本市の財政について</u> 1．財政状況の改善について ⑴　８年連続で実質単年度収支が赤字で、また、経常比率が100パーセントを超えている財政状況であるが、分析と課題について伺う。 ⑵　扶助費の増加要因と今後の見通しを伺う。	市　長

(同)	(同)	佐　藤　剛　太	⑶　今後の改善計画、歳入・歳出の両面での改善策について伺う。 ２．他自治体との比較について ⑴　県内の自治体で財政状況を比較している自治体はどこか、またどのような比較を行っているのか伺う。 ⑵　毎年、総務省が人口と産業構造により分類している類似団体（令和５年度）について伺う。 ①　類似団体の中で本市が比較している自治体はどこか、またどのような比較を行っているのか伺う。 ②　市町村財政比較分析表及び経常経費分析表の各項目の分析の説明が分かりにくいと感じる。公開されている資料なので、誰が見ても分かりやすい説明にすべきと考えるが、改めて財政分析についての分かりやすい結果と要因を伺う。 ア　「財政力」について伺う。 イ　「将来負担の状況」について伺う。 ウ　「公債費負担の状況」について伺う。 エ　「定員管理の状況」について伺う。 オ　「給与水準」について伺う。 カ　「物件費」について伺う。 キ　「公債費以外」について伺う。 ③　類似団体と本市の財政状況を比較すると本市の財政運営が健全に行われていると理解するが、本市の財政状況について見解を行う。 ３．今後の基金について本市の見解を伺う。 ⑴　本市の財政調整基金の適正規模について見解を伺う。 ⑵　今後の基金の運用状況と、より効果的な運用について見解を伺う。 ４．財政の健全性の確保・向上に向けた取組について、地方公共団体金融機構（ＪＦＭ）と総務省の共同事業である地方公共団体の経営・財務マネジメント強化事業などを活用し、今後の財政の健全化の確保や効率的な資金の運用などを行うべきではないか伺う。	市　長
３	１１	佐　藤　一　郎	**<u>１．子どもの未来への投資について</u>** 市政報告の中で移住・定住の推進の取組として、仙台市内の住宅展示場で岩沼市移住フェアを開催し、ま	市　長 教育長

（同）	（同）	佐　藤　一　郎	た、都内では「みやぎ移住・交流フェア２０２５」に参加し、本市ＰＲを行い、本市への興味・関心を移住に結び付けられるように引き続き取り組んでいくとのことであった。子どもたちを受け入れる保育所、小・中学校施設の現状と今後について伺う。 １．30年以上経過した保育所施設の現状について伺う。 ２．本市は子育て環境の充実や安全で安心な地域づくりを進め、「住みたい」「移住したい」と本市を選んでもらうことを推進しているが、今後の子育て支援施設改修工事の計画について伺う。 ３．30年以上経過した小・中学校教育環境施設の現状について伺う。 ４．今後の魅力的な子育て教育環境づくりとして、小・中学校の教育施設の改修工事計画について伺う。 ５．子どもの未来への投資について、市長の見解を伺う。	市　長 教育長
			<u>２．橋、道路、上下水道のインフラ整備について</u> １．橋梁の改修工事状況について伺う。 ２．令和４年３月策定の岩沼市橋梁長寿命化修繕計画において、建設後50年以上を経過した高齢化橋梁は36橋、令和14年には101橋になるとのことである。橋梁改修工事について見解を伺う。 ３．今までの基本的な道路整備について伺う。 ４．市内には約700路線、約288㎞の市道がある。道路整備について見解を伺う。 ５．今までの上水道、下水道、特定公共下水道整備について見解を伺う。 ６．上水道は297㎞、下水道は207㎞の管路がある。そのほかに特定公共下水道があるが、今後の整備についての見解を伺う。 ７．報道では、岩沼市内の流域下水道管路の調査の結果、市内に「緊急度Ｉ」と判定され、１年以内に対処が必要な下水道管があったが、工事内容についてどのような報告を受けているのか伺う。 ８．これからのインフラ整備について、どのような展望を持って今後の整備を行っていくのか、市長の考えを伺う。	市　長
４	５	植　田　美枝子	**<u>１．政策の成果と課題について</u>** １．こども・子育て支援パッケージ第２弾について ⑴　おむつ“あんしん”お届け隊がスタートしたが、	市　長

（同）	（同）	植　田　美枝子	利用者等からはどのような反響があったのか伺う。 ⑵　一時預かり保育の対象年齢拡大を実施した成果と課題を伺う。 ⑶　病児保育の対象年齢拡大を実施した成果と課題を伺う。 ⑷　慣らし保育可能期間の延長を実施した成果と課題を伺う。 ⑸　子育て支援センターの土曜日試行的開放の今後について伺う。 ⑹　長期休業期間における放課後児童クラブへの弁当配送に関して、利用者数と感想を伺う。 ２．高齢者福祉事業で行った見直しや廃止した事業に対して市民からの意見等はあるのか伺う。 ３．矢野目西産業用地について ⑴　進捗状況を伺う。 ⑵　年間、どれほどの税収が見込まれるのか伺う。 ４．市長就任後３年半で多くの政策を実施し、組織改革も行ったが、成果と課題をどのように捉えているか伺う。	市　長
			２．医療費抑制について １．医療費を抑制するための工夫をどのように考えているのか伺う。 ２．総医療費の自己負担分以外は税金等で補填されている事実を周知することが必要と思うが、考えを伺う。 ３．「コンビニ受診」や「複数受診」が医療費を押し上げている事実を知らせるべきと思うが、考えを伺う。 ４．現状の医療制度を守るためにチラシを何度も広報に挟んで全戸に届けることが大事と思うが、考えを伺う。 ５．医療費を抑制するには国レベルの政策的な取組と医療機関や個人レベルの効率化や意識改善が必要と思うが、考えを伺う。	市　長
			３．稼げる自治体について １．自主財源の一つであるふるさと納税について、今年度における現時点の寄附額を伺う。 ２．広告事業として公共施設のネーミングライツ事業を実施してはどうか伺う。 ３．千年希望の丘の活用について	市　長

(同)	(同)	植　田　美枝子	⑴　年間の維持費を伺う。 ⑵　梅の木、イチジク、柿、栗、ゆず、ミカン等のそれぞれの果樹園を作ってオーナーを募り、オーナー登録料を維持管理費の一部に充てるオーナー制の果樹園として活用してはどうか伺う。	市　長
5	3	大　村　晃　一	**<u>1．近隣連携教育支援と子育て支援について</u>** 1．本市も毎年事業費を負担している、白石市にある適応指導教室「仙南けやき教室」について伺う。 ⑴　負担金を支払うことになった時期や経緯について伺う。 ⑵　利用者数について ①　過去５年間の毎年の利用者数を伺う。 ②　①のうち本市の小中学生の利用者数を伺う。 ⑶　負担金について ①　仙南地域４市９町の小中学生が対象なので、負担金も４市９町が支出して事業費を賄っていると思うが、過去５年間の毎年の４市９町合計の負担金額を伺う。 ②　①のうち本市の負担金額を伺う。 ③　負担金の負担割合の算出方法を伺う。 ⑷　本市にとって「仙南けやき教室」の必要性をどのように感じているのか、教育長の見解を伺う。 2．区域外就学について ⑴　名取市などから本市の小中学校へ就学している過去５年間の毎年の児童数及び生徒数を伺う。 ⑵　区域外就学をしている児童及び生徒に対する過去５年間の他市町村からの負担金などの額を伺う。 ⑶　⑵の金額はどのように決められているのか伺う。 3．こども・子育て支援パッケージについて ⑴　これまでの取組の費用対効果をどのように捉えているのか見解を伺う。 ⑵　今年度から子育て支援センターの土曜日開放を試行的に行っているが、来年度の予算編成なども行っている中で、来年度はどのように考えているのか伺う。 ⑶　ハナトピア岩沼リニューアル後の子どもたちの遊び場ｍｉｉｉｎａ（ミイナ）の管理運営について ①　入場管理について	市　長 教育長

（同）	（同）	大　村　晃　一	ア　屋内の遊戯施設などは、安全面などから、面積に対して利用者の人数制限を行う措置が取られる場合もある。オープン当初や真夏の暑い時期、真冬の寒い時期など、混雑が予想される日もあると考えるが、その場合の入場制限など、対応策はどのように考えているのか伺う。 イ　岩沼市民と市外の利用者は利用金額が異なると説明があったが、入場時などに把握をする場合、デジタル身分証アプリ（ポケットサイン）やマイナンバーカードなどの、デジタル的な手法を活用することも有効と考えるが、どのように対応する予定なのか伺う。 ②　市民の利用者を増やすために、期間内で来場し放題の市民限定フリーパスなどを今後検討して、試行的に行ってみてはどうか伺う。 ③　構想段階から、地域住民にも関わってもらう施設を目指していたが、地元雇用やボランティア人材などもその一部と考える。どの程度内容が固まっているのか伺う。 ⑷　予算編成の時期になっているが、こども・子育て支援パッケージの第３弾は考えているのか伺う。 ⑸　子育て環境整備の一つとして、市内の飲食店や店舗などで授乳やおむつ替えスペースがあるなど、乳幼児同伴が可能だと分かる場所を示すマップを作成してはどうか。加えて、飲食店や店舗が乳幼児と同伴しやすい環境整備を行う場合の補助の在り方なども検討してみてはどうか伺う。	市　長 教育長
6	1	岡　田　みつえ	**<u>１．鳥獣対策強化について</u>** 宮城県は県内における熊の目撃等件数の増加に加え、９月及び10月には死亡事故も含めた人的被害の発生に伴い、県内全域を対象に熊出没警報及び強化期間を12月31日まで継続・延長した。岩沼市においても里山・農地・市街地住宅地が近接し、鳥獣の市街地侵入リスクを抱えている。冬眠期に入る今こそ、来年度の出没期に向けて体制整備を進める必要があると考える。 １．熊出没に関する岩沼市の現状認識について、県内では今年度、想定外地域でもツキノワグマの目撃が相次いでいる。岩沼市は仙南の里山・農地・住宅地・	市　長 教育長

（同）	（同）	岡　田　みつえ	河川域が連続する地形特性を有し、熊の移動経路となり得る環境が存在する。市として、周辺市町の状況及び県の警戒情報を踏まえ、どのように出没リスクを認識しているか伺う。 ２．本市における熊を中心とした鳥獣対策の現状と課題について ⑴　目撃情報の伝達体制について 現在、市ホームページでの公表が中心であるが、市民からは「掲載が遅れる」「すぐに通知が欲しい」などの声が多い。出没が多い早朝・夕方に迅速かつ確実な通知のため、ＬＩＮＥやＳＮＳ等即時性の高い伝達手段を併用できないか伺う。 ⑵　遭遇時の対応マニュアルの周知について ①　市民全体への周知について 県の行動指針はあるが、実際には「具体的にどう行動すべきか分からない」という声がある。高齢者・子どもにも分かりやすい対応マニュアルなどによる周知が必要と考えるが、見解を伺う。 ②　小中学校での周知について ア　教育委員会から学校を通じて各家庭にメールで目撃情報が届くが、児童・生徒に対しては学校でどのような指導を行っているのか伺う。 イ　今後の出没状況によっては校外学習の開催時期や場所の変更を含めた対応が必要ではないか、見解を伺う。 ⑶　農地・里山の管理状況と誘引要因への対応について 耕作放棄地・放置（放任）果樹・竹林の繁茂など、鳥獣を誘引する環境は市内にも点在する。現状の点検状況、所有者への指導、地域課題及び今後の対策方針について伺う。 ３．今後の熊対策の強化について ⑴　通学路の安全確保について やぶや見通しの悪い箇所の点検、教育委員会との連携、見守り体制の強化について伺う。 ⑵　地域ぐるみの取組への支援について 高齢化が進む地域の見守り等への市の支援方針を伺う。 ⑶　熊の見回り体制について	市　長 教育長

（同）	（同）	岡　田　みつえ	本市は11月13日から専門的な見回りを県に依頼しているが、見回りの頻度・時間帯・対象地域が市民には分かりにくい。冬眠期に入る今の時期から十分な備えをしておくべきであると考えるが、次年度の出没期に向け、県との協議内容や見回りの実施状況の把握について伺う。 ⑷　市内における箱わなの設置について ①　現時点での箱わなの設置状況、台数及び効果について伺う。 ②　今後の目撃件数によっては箱わなの増設をする必要があると考えるが、見解を伺う。 ４．国・県との連携と財源確保について、鳥獣被害防止総合対策交付金等、熊対策に活用できる国・県の補助制度の現状と、今後の連携強化について伺う。	市　長 教育長
7	9	布　田　恵　美	<u>１．岩沼市における熊出没対策について</u> 近年、宮城県全域でツキノワグマの出没件数が増加しており、本市においても山沿い地域や農地周辺を中心に目撃情報が相次いでいる。 市民の安全確保、農作物被害の防止、地域としての備え強化の観点から、岩沼市が取り組むべき熊出没対策について以下のとおり伺う。 １．出没情報の把握と市民への周知について ⑴　市における熊目撃情報の収集方法と現状の課題をどのように認識しているか伺う。 ⑵　市民への情報提供について、防災行政無線、市公式サイト、ＳＮＳ等の連携強化を図る考えはあるか伺う。 ⑶　出没場所を地図上で可視化する「クマ出没マップ」の導入を検討できないか伺う。 ２．誘引源の管理と環境整備について ⑴　柿や栗などの放置（放任）果樹や農地周辺のやぶが熊の誘引源となっている状況を市としてどのように把握しているか伺う。 ⑵　放置果樹の伐採支援制度や高齢者世帯への伐採代行支援を創設する考えはあるか伺う。 ⑶　河川敷や農地周辺のやぶ刈りについて、県との連携を強化し、年間計画として実施することができないか伺う。 ３．市民への防除資材の配備と学校現場の安全確保について ⑴　熊鈴、ホイッスル、爆竹などの防除資材が県か	市　長 教育長

（同）	（同）	布　田　恵　美	ら市へ配布されているが、市民や町内会（自治会）へ積極的に配備する考えはあるか伺う。 ⑵　学校や保育施設において、熊出没時の警戒フラッグ設置や登下校時の見守り強化など、具体的な安全対策を講じる考えはあるか伺う。 ４．パトロール体制の強化について ⑴　現行のパトロール体制（市職員・猟友会・町内会）と課題について伺う。 ⑵　早朝及び夕方など、熊の活動が活発な時間帯に重点パトロールを行う考えはあるか伺う。 ⑶　「岩沼クマ対策パトロール隊」を組織するなど、地域主体の新たな協働体制を構築する意向はあるか伺う。 ５．住民啓発と教育活動について ⑴　熊遭遇時の対処方法や誘引源管理に関する周知を、市としてどのように行っているか伺う。 ⑵　警察・猟友会との連絡体制を迅速化するための改善点をどう考えているか伺う。 ⑶　市民にどの程度の危険が迫っているのかを直感的に理解できるよう、例えば『レベル１：山際での目撃』、『レベル２：住宅地近接』、『レベル３：生活圏侵入』、『レベル４：緊急・攻撃性』など、市独自の出没レベル判断基準を策定し、情報発信に活用すべきと考えるが、市として導入を検討する考えはないか伺う。	市　長 教育長
			<u>２．日常生活用具給付制度における施設入所者の対象外問題について</u> 本市では、日常生活用具給付制度において、福祉施設・医療機関に入所している方を原則対象外としている。しかし、現場では施設入所中であっても、情報通信機器、エアマット等、生活の質の向上や意思伝達に不可欠な用具が必要となる事例が多数存在する。制度の「在宅前提」での設計と、実際の生活実態との乖離が生じているため、制度運用の改善について市の見解を伺う。 １．岩沼市では日常生活用具給付制度において、福祉施設・医療機関入所者を原則対象外としているが、この取扱いの理由と、現行の運用基準はどうなっているのか伺う。 ２．相談者から寄せられた声として、「施設入所中であっても、情報通信機器、エアマットなど、個別状	市　長

(同)	(同)	布　田　恵　美	況に応じて必要な用具が多くある。」という実態がある。「入所中」という理由だけで対象外となっているが、市としてこの運用は妥当と考えているのか伺う。 ３．仙台市では、施設入所者であっても個別に事情を考慮し、柔軟に日常生活用具の給付が行われている。市として、同様の例外運用や個別審査の導入を検討する考えはあるのか伺う。 ４．日常生活用具費給付制度の目的は「自立支援」、「生活の質の向上」である。この目的に照らせば、施設入所者を一律に対象外とする現行の扱いについては、見直しの余地があると考える。支援技術の提供には地域差を縮小する視点が不可欠であり、市として、制度改善や運用の見直しに向けた検討を進めるべきではないか、考えを伺う。	市　長
8	10	渡　辺　ふさ子	**<u>１．鳥獣被害対策について</u>** １．鳥獣被害対策について ⑴　市内の中山間地における人口減少や高齢化などで耕作放棄地が増えていることにより、畑だったところが“がさやぶ”や雑木林のようになり、イノシシのすみかになっている。近隣住民からの「里芋やヤーコンが全滅だった。」との声や、枯れ草や枯れ木による火災の懸念もあり、市でやぶ刈りをしてほしいとの要望も寄せられていることから、やぶ刈りをしてはどうか伺う。 ⑵　熊対策について ①　岩沼市においてはこれまでのところ、熊による人的被害や農作物の被害は出ていないと市の担当課から聞いてはいるが、近隣市町や県内各地の人的被害や農作物の被害が例年になく多く報道されている。また、市内での熊目撃情報は今年度12月８日時点で11件報告されている。熊対策が必要と考えるが、見解を伺う。 ②　放任果樹の伐採や箱わなの増設、忌避剤、点滅ライトの設置をしてはどうか伺う。 ③　地域のリーダーや専門家が住民を指導し、草刈りや誘引物の除去など、熊が隠れる場所をなくす環境整備を進めてはどうか伺う。 ④　熊対策の現場には状況や痕跡を読み、選択肢を判断する専門員が不可欠であり、中長期的には多数育成することが備えとなる。技術を継い	市　長

（同）	（同）	渡　辺　ふさ子	で広めていくための施策、見解を伺う。 ２．猟友会について ⑴　現在の人数と熊対策に対応できる方の人数を伺う。 ⑵　年代ごとの人数を伺う。 ⑶　国（厚生労働省）の認定駆除事業について ①　今年度の予算を伺う。 ②　事業による駆除数を伺う。 ③　イノシシ等の捕獲時の報酬を伺う。 ⑷　岩沼市のイノシシ等捕獲報奨金制度について ①　今年度の予算を伺う。 ②　前年度の事業による駆除数を伺う。 ③　イノシシ等の捕獲時の報酬を伺う。 ⑸　担い手を増やすために捕獲時の報酬を増額するなど待遇改善を行ってはどうか伺う。	市　長
			２．小中学校の給食費無償化について １．2026年４月から、小学校の学校給食費の無償化が実施される見込みである。高市内閣は11月28日に、重点支援地方交付金の拡充を盛り込んだ2025年度補正予算を閣議決定した。 ⑴　この交付金の金額の見込みを伺う。 ⑵　中学校の給食費無償化をした場合の予算を伺う。 ⑶　交付金を使って、中学校の給食費無償化も小学校同様に実施してはどうか伺う。	市　長 教育長
			３．健康保険証について １．国が勧めるマイナ保険証への一体化に伴い、これまで使っていた紙の保険証は12月２日で有効期限が切れるとテレビでも放送され、一部の医療機関や薬局で「マイナ保険証でないと受診できない」と説明するところもあった。しかし、厚労省は「従来の健康保険証」を来年３月末まで使用できるようにする暫定措置を医療団体あてに連絡している。市のホームページでの周知や健康増進課、市民・税務課窓口、各出先機関にもチラシを作製し配置すべきではないか伺う。	市　長
9	8	大　友　　健	**１．岩沼市民体育センター跡地利用について** １．中央コミュニティセンターの必要性について ⑴　町内会長らは以前、署名を集めて市長に要望したというが、どのように対応したのか。 ⑵　市民懇談会の「まちなか版」を、まちなかで開	市　長 監査委員

（同）	（同）	大　友　　健	けない現実をどう見るか。 ⑶　まちなかの市民が集える場所、災害の際の避難所、投票所として必要ではないか。 ⑷　まちなかの「市民と協働」の推進、市民活動の拠点として欠かせないのではないか。 ⑸　中央コミュニティセンターの必要度は「ない」と考えるのか。 ⑹　コミュニティセンターに事業性はないが、市は事業者に「地元の声だ」と強く要望しないのか。 ２．公募型プロポーザル提案について ⑴　市が事業者に示した条件は何だったのか。白紙丸投げか。 ⑵　貸付候補者に決まった事業者の提案のどこが優れていたのか。他者のどこが劣っていたのか。 ⑶　地元住民との意見交換会、Ｗｅｂアンケートを実施した狙いは何だったのか。 ⑷　地元の声よりＷｅｂアンケートを優先する発想だったのか。 ⑸　結果的に出店は２社だけ。公共用地の一等地が絡む「まちづくり」を仙台市太白区柳生の業者が担うとは、市の企画部門などにそういった業務は難しいということか。 ⑹　「２社と出店合意した」とは、契約締結のことか。契約なら停止条件付賃貸借契約か。 ⑺　ドラッグストアは過当競争状態にあり、競争激化に市も一枚かむということか。 ⑻　市有地で営業する出店２社は、現存する地元の小さな民間業者を圧迫しないか。 ３．公共用地で営利目的の商売をさせることについて ⑴　市の所有地で民間に商売を営ませるのは、一般的な常識から外れていないか。 ⑵　その貸付料が「土地評価額の４％」とは、安すぎないか。 ⑶　評価額とは何を指すのか。固定資産税評価額か。 ⑷　安く貸すのは慣例なのか。収益性の高い民間事業者に「低率４％」でいいのか。 ⑸　適正な貸付料との差額分の損害を市に与えていることにならないか。 ⑹　市民会館駐車場有料化に絡む市有地の貸付料	市　長 監査委員

(同)	(同)	大　友　　健	も同様で、業者のもうけ過ぎではないか。	市　長 監査委員
			<u>２．市民会館駐車場料金について</u> １．いわば使用料である市民会館駐車場の駐車料金が、条例がないのに徴収できるのはなぜか。	市　長
10	2	西　塚　秀　市	**<u>１．解体後の岩沼市民体育センター跡地の利活用について</u>** １．今後の岩沼市民体育センター跡地の利活用について ⑴　貸付候補者について伺う。 ①　貸付候補者の不動産会社はどのような会社なのか伺う。 ②　この中に入る店舗はどのような会社なのか伺う。 ③　店舗の建設に関してはどの業者が建てるのか伺う。 ④　跡地には２店舗がどのように配置されるのか伺う。 ⑤　２つの店舗が入るということだが、２店舗の延べ床面積はどれくらいなのか伺う。 ⑥　この２店舗以外に、貸店舗として他の店舗が入る予定はあるのか伺う。 ⑵　貸付候補者との契約金額について ①　貸付候補者と岩沼市との年間の契約金額を伺う。 ②　契約の年数は何年か伺う。 ③　年間の契約金額はどのように算出されたのか伺う。 ④　契約金額は市としては適正な金額なのか伺う。 ⑶　岩沼市民体育センター跡地の北側に位置する保健センターについて ①　跡地の利活用について、地域住民に対する意見交換会と市民からのアンケート調査が行なわれたが、市としてはこの２回だけで市民に対する説明は十分であったと思っているのか伺う。 ②　この跡地の北側に保健センターがあり、多くの利用者が訪れている。乳幼児健診、予防接種、離乳食教室、乳児相談などの事業が行なわれて	市　長

（同）	（同）	西　塚　秀　市	いるほか、成人、高齢者対応として特定健診、胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん検診などが行なわれている。隣接する駐車場は20台位であるが、この検診に来る方の駐車場はどうするのか伺う。 ③　隣接する駐車場が満車の場合はどうすればいいのか、雨天時や強風時はどのように考えているのか、高齢者の対応はどうするのか。また、乳幼児健診のため車で来る場合はどのように考えているのか伺う。 ２．解体後の今後の利用を考えているのであれば、今は急いで進めずに少し時間を置き、市民のために有効な活用方法を市民とじっくり話し合い、それに合う施設を企業とともに考え、この跡地の有効な利活用をしっかり考えていくべきだと思うが、考えを伺う。 ３．この跡地の利活用及び開発を今一度考えることが必要だと思うが、その考えはあるのか伺う。	市　長
			<u>２．市役所内の案内窓口について</u> １．市民・税務課の窓口業務について ⑴　現在の業務について ①　市民・税務課の窓口業務について、案内対応はどのように対応しているのか伺う。 ②　案内窓口は市職員が担当しているのか伺う。 ⑵　案内窓口の対応について、今後、総合案内窓口を設けてはどうか伺う。 ２．庁舎内での市民とのトラブル事例について ⑴　庁舎内での市民と職員のトラブル発生の件数はどれくらいあったのか伺う。 ⑵　窓口でトラブル等が発生した場合はどのような対応をしているのか伺う。 ⑶　来庁者とのトラブルや犯罪を未然に防ぐために、警備員や警察官ＯＢの方々を雇用し、日中の庁舎内の警備・巡回を行ってみてはどうか伺う。	市　長
			<u>３．庁舎内のセキュリティー対策について</u> １．庁舎内のセキュリティー対策について ⑴　平日の庁舎内のセキュリティー対策について、どのような対応を行っているのか伺う。 ⑵　休日や夜間などの閉庁時間帯はどのように対応しているのか伺う。 ⑶　昨年から選挙投票所が市役所６階に変更にな	市　長

（同）	（同）	西　塚　秀　市	ったが、投票期間中の庁舎内のセキュリティー対策はどのように行っていたのか伺う。 ⑷　今後の庁舎内のセキュリティー対策について、市としてどのように考えているのか伺う。	市　長